



Veritas Alta™ Capture を選ぶべき 主な理由

企業内の関連するコミュニケーションをすべてキャプチャ、アーカイブ、検出

約 70% の従業員がオフィスワークとリモートワークを組み合わせたハイブリッドリモートで勤務する今日、IT 環境は急速に変化しています。企業ではビジネスコミュニケーションに使用するチャンネルが次々に増え、従来の電子メールに加え、新しいコンテンツソースをキャプチャしてアーカイブする必要性が高まっています。

Veritas Alta™ Capture (旧 Merge1 SaaS) は、従業員向けの主要なキャプチャソリューションです。チャット、ファイル共有、ソーシャルメディア、金融プラットフォーム、モバイル/SMS、コラボレーション、音声チャンネルにわたり、ソースから直接実施できます。

70%

コンプライアンスを実現する Veritas Alta™ Capture の 5 つの特長



1. コンテンツのキャプチャを簡素化して自動化

Slack、Microsoft Teams、WhatsApp などのコラボレーションツールは、コンプライアンス、電子情報開示 (eDiscovery)、企業統治のためのアーカイブ要件を念頭に置いたものではありません。コンテンツをキャプチャするネイティブの機能はプラットフォームごとに大きく異なるため、記録管理およびコンプライアンス要件に準拠するためのプロセスが複雑になります。Veritas Alta™ Capture では、あらゆるコンテンツのキャプチャを簡素化して自動化することができ、Veritas Alta™ Archiving や Veritas Alta™ eDiscovery を使用して 120 を超えるコンテンツソースのキャプチャが可能です。



2. データ保持の規制要件に沿った方法で各種コラボレーションコンテンツをアーカイブ

多くの IT プロフェッショナルが見落としている、基本的でありながら重要な事実があります。それは、すべてのデータは、訴訟やコンプライアンスに取り組む際に開示を求められる可能性があるということです。SEC の規則 17、FINRA、MiFID II などの管理規則では、コンプライアンスのためのコンテンツのアーカイブ方法が規定されています。同様に、HIPAA の対象機関も、適切なポリシーを策定して、電子メールなどのコラボレーションツールでやり取りした患者の機密情報を保護する必要があります。データ保持要件、プライバシー要件、社内のデータガバナンスポリシーに準拠する必要がある場合は、コラボレーション、ビデオ、チャットツールに包括的に対応できる態勢を整えておかなければなりません。



3. Veritas Alta™ Archiving および Veritas Alta™ eDiscovery とシームレスに統合

Veritas Alta™ Capture は、金融機関を含むすべての業種の企業に対応し、規制および企業統治の要件へのコンプライアンスを短期間で実現します。Veritas Alta™ Capture は、クラウドで簡単に設定して導入することができます。次の主要な機能を通じて、関連コンテンツのキャプチャを簡素化します。

- ネイティブキャプチャ: ネイティブ API を介して 120 を超えるコンテンツソースからキャプチャ
- メッセージのスレッド化: 多くのインタラクションからなる会話全体を、アーカイブ可能な単一のアイテムに取り込む
- キャプチャのフィルタリング: 日付範囲に基づいてコンテンツソースのキャプチャを設定することにより、最初のキャプチャ作業を最適化
- 管理の簡素化: Veritas Alta™ Capture の各データソースを Veritas Alta™ Archiving から簡単に管理および監視可能



4. コンプライアンス関連の負荷を低減し、規制に基づく罰金を回避

すべてのコミュニケーションを業界ごとの規制要件に合わせてキャプチャし、分類することは非常に困難です。今日使用されているコラボレーションツールの大半は、独自のストレージリポジトリを備えておらず、データを他の複数のサービスに保存しています。たとえば Microsoft Teams の場合、ストレージリポジトリは他の Microsoft 365 サービスの中にあります。すべての関連コンテンツをキャプチャする作業は極めて複雑で、時間もコストもかかります。Veritas Alta™ Capture なら、あらかじめ設定されたカスタム要件に基づき、防御と監査に対応した形ですべての関連データのコンテンツキャプチャプロセスを自動化し、単一または複数のアーカイブに保存できます。



5. 内部調査、外部監査、訴訟に伴うリスクを低減

企業で日々の業務に使うアプリケーションは平均で 88 個にのぼり、3 年前と比べて 21% 増えています。管理規則への準拠、訴訟、電子情報開示、および内部調査に際しては、そのコミュニケーションの記録が必要とされます。Veritas Alta™ Capture では、関連するすべての会話を、防御と監査に対応した形で簡単にキャプチャし、既存のインフラにアーカイブすることが可能です。

詳細はこちら

Veritas Alta™ Capture およびベリタスが現在展開しているプロモーションの詳細については、Veritas Alta™ Capture の Web ページをご覧ください。

無料のサポートとアップグレードを引き続き利用してベリタス製品を最大限に活用するには、ベリタスのメンテナンスおよびサービスを更新してください。更新すると、最新のイノベーションをリリースと同時に利用開始できるため、製品の状態を最新に保ち、最適な動作を実現することができます。また、ベリタスのサービスを利用すれば、エキスパートによるテクニカルサポートに随時アクセスし、問題を早期に解決することも可能です。結果として、ベリタス製品の価値をさらに引き出してリスクを低減し、ビジネスに集中できるようになります。

ベリタスのメンテナンスおよびサポートの詳細については、<https://www.veritas.com/ja/jp/company/licensing/process/renew> をご覧ください。

ベリタスについて

Veritas Technologies は、マルチクラウドデータ管理のリーダーです。データの保護、リカバリ能力、コンプライアンスを確保するために、Fortune Global 100 の 95% を含む、先進企業 80,000 社以上が、ベリタスのソリューションを導入しています。ベリタスは、ランサムウェアのようなサイバー攻撃がもたらす脅威に対してお客様が必要とする回復力を提供し、大規模な環境でも信頼できると評価をいただいております。単一の統合されたアプローチを通じ、800 以上のデータソース、100 以上のオペレーティングシステム、1,400 以上のストレージターゲット、60 以上のクラウドをサポートしており、ベリタスの実行能力に匹敵するベンダーは他にありません。Cloud Scale Technology により、ベリタスは運用にかかる煩雑さや業務量を削減しつつ優れた価値を提供する、自律型データ管理の戦略を提供しています。ベリタステクノロジーズ合同会社は、Veritas Technologies の日本法人です。

VERITAS™

〒107-0052 東京都港区
赤坂 1-11-44
赤坂インターシティ 4 階
www.veritas.com/ja/jp

各国オフィスとお問い合わせ先については、弊社の Web サイトを参照してください。
veritas.com/ja/jp/company/contact